

令和5年7月31日

各報道機関文教担当記者 殿

経済産業省「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」に採択 ヘルスリテラシーの向上とフェムテック研究推進を目指し 「思考するトイレ空間」プロジェクト始動

このたび、金沢大学は、経済産業省が実施する令和5年度「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」に申請し、実証事業者として採択されました。代表団体として国立大学法人が採択されるのは初めてです。

「フェムテック」は、Female と Technology をかけ合わせた造語で、女性が抱える健康課題を解決する製品やサービスなどを指します。採択事業は、令和4年4月に設立した金沢大学ダイバーシティ推進機構の企画で、大学内のトイレをフェムテック情報ステーションとし、トイレを中心に女性の健康課題に対する理解の促進を図る、ヘルスリテラシー向上を目的としたプロジェクトとなります。

ダイバーシティ推進機構では、学内の環境改善について議論を重ねていく過程でトイレに着目し、ダイバーシティについて考える場としてのトイレという提案が生まれました。誰もが使うトイレを通じて、月経や更年期といった女性の健康問題を社会課題として捉え、教育・研究機関として解決策を模索していきます。また、積極的に企業とも連携し、産学連携の研究プロジェクトの創出も目指します。

つきましては、取材・報道をよろしくお願ひします。

【参考】

- ・フェムテックを活用した働く女性の就業継続支援（METI/経済産業省）

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/diversity/femtech/femtech.html>

【本件照会先】

金沢大学総務部職員課

ダイバーシティ推進担当：高橋

Tel: 076-264-5285

E-mail: diversity@adm.kanazawa-u.ac.jp

【広報担当】

金沢大学広報戦略室

川田

Tel: 076-264-5024

E-mail: koho@adm.kanazawa-u.ac.jp

「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築



—大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた

ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト

主な事業内容

トイレ内フェムテック情報ステーション

○ デリケートな話題となるフェムテックに関する情報をトイレから発信することで、女性たちが積極的に関わりやすくすることが本事業の特徴。

○ 女性トイレだけでなく、男性トイレにも設置し、男性の理解も促進する。

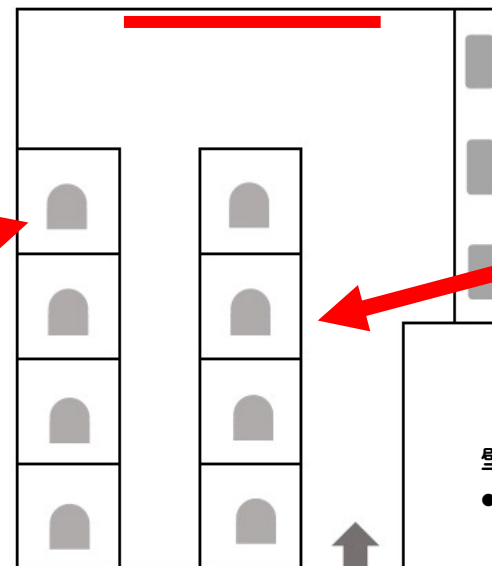
○ 研究機関として、フェムテック研究の推進も目指していく。

設置イメージ

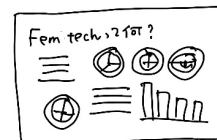
個室モニター設置

- モニター設置し、フェムテック情報を動画等で配信。
- QRによるアンケート調査など

サンプル提供
(フェムテック商品やナプキンなど)



出入口



壁面サイン

- フェムテック関連のデータをデザイン展示。

※そのほか、学生とのワークショップやレクチャー等を予定。



「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築



—大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた

ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト

事業の目的

ダイバーシティ の推進

- ◆ 働きやすい職場環境づくり
→女性の上位職登用の促進。
- ◆ 女性理系研究者の活躍の場づくり。

研究機関としての特性

フェムテック 研究の促進

- ◆ ジェンダード・イノベーションズ(性差研究)
への取組促進
- ◆ 融合領域的研究の推進

個人の パフォーマンス 向上

- ◆ 金沢大学の構成員約1万4000人(うち女性約5000人)の健康管理。
- ◆ フェムテックを通じたヘルスリテラシー向上の取り組み。
- ◆ 働きやすい職場環境づくり→女性の上位職登用の促進。

